

3/22年3月



## 防衛省が予測

馬毛島（鹿児島県西之表市）への米空母艦載機離着陸訓練（FOLP）移転と自衛隊基地建設設計画をめぐり、

防衛省は、想定される米軍機と自衛隊機の年間飛行回数が最大2万8900回になると明らかにしました。

16日に公表した資料によると、予測される最大飛行回数は米軍機が約2万3500回、自衛隊機は約2万3500回。また、防衛省は日米航空機が離着陸する際の騒音レベルをまとめた「音響データ」を公

回です。夜間の飛行回数をみると、午後7時～10時は自衛隊約5400回、米軍約1100回。午後10時以降は米軍約600回に上ります。

米軍機の飛行回数は、硫黄島（東京都）で行われているFOLPの実績をもとに予測。同島での過去10年間の訓練は年2100回程度で、FOLPは、10日間程度を年間2回実施される予定で、訓練は深夜3時まで行われます。その期間以外に、自衛隊はF-35Bの発着艦訓練、V-22オスプレイの展開訓練など12種類の訓練を予定。日米戦闘機による訓練は年1500回程度と見込んでいます。

# 馬毛島 年間飛行2万8900回に

## 馬毛島で想定される年間最大飛行回数

	午前7時～ 午後7時	午後7時～ 午後10時	午後10時～ 翌午前7時	合計
自衛隊	約1万8100回	約5400回	—	約2万3500回
米軍	約3700回	約1100回	約600回	約5400回

表。それによると、西之表市西南部にある10キロの地点で離陸時に約80秒、着陸時に約60秒。

昨年5月に防衛省が実施したデモ飛行では最大77秒を記録し、離陸時の予測はこれを上回りました。騒音の目安は60秒で一般道路の周辺、70秒で新幹線の車内、80秒でゲームセンターの店内です。

FOLPは、10日間程度を年間2回実施される予定で、訓練は深夜3時まで行われます。その期間以外に、自衛隊はF-35Bの発着艦訓練、V-22オスプレイの展開訓練など12種類の訓練を予定。日米戦闘機による訓練は年1500回程度と見込んでいます。